



# 都連青年部通信

部落解放同盟東京都連合会 青年部  
2018年 10月号

## 雇用相談のお知らせ

※緊急の場合はいつでも対応します。労働に係る生活相談等お困りごとがありましたら気軽に相談ください！！

◆内容:国と都の専任の担当者が仕事探しの手伝いをします。

- ①就職や仕事探しのサポート
- ②職業訓練や非正規から正規へのキャリア・アップの相談
- ③失業・求職時の居住や生活費などの生活相談・支援

◆費用:無料

◆問い合わせは各支部へ！

## 9月 取り組み

- ◆9月2日(日)『狭山共闘青年交流会・弾左衛門フィールドワーク』
- ◆9月14日(金)『青年部学習交流会』解放会館

都連 HP QR  
青年部通信のバックナンバー  
が見れますよ～



## 今後の予定

- ◆10月6日・7日『関東ブロック青年交流会宿泊交流会 IN 栃木』
- ◆10月14日(日)14:00～『第4回聞取り活動』解放会館
- ◆10月30日(火)18:30～『狭山事件の再審を求める駅前情宣』

## 10月交流会

日時: 10月14日(日)  
12:00～

場所: 東京解放会館  
聞き取り活動の前に会議をします。聞き取りと併せて参加下さい

## 問い合わせ

〒111-0024  
台東区今戸 2-8-5 東京解放会館内  
Mail:moyu.k@bllfokyo.net  
TEL 03-3874-7311  
担当:岸本

## — 方針のつくりかた — (例・東京都人権条例への取組み)

1. 内因と外因の相互関係を考え、情報収集のためアンテナをはる
    - 内因⇒物事の内部にある原因/部落解放運動史=取組の積み重ねから→
    - 外因⇒物事の外部から生じた原因/運動に影響を与える外部要因(情勢とか外からの動き)
  2. 東京都が人権条例をつくるらしい⇒外因
    - ・東京の部落解放運動に関係ある? ・関係は大きい?小さい? →運動の関与が必要か分析する
  3. 関与が必要!となれば、条例の内容や制定までながれなどの情報を収集する。
  4. 条例の概要公表後、基本的な考え方(評価)、立場を明確にする。  
賛成か反対ではない 「運動に役立つか?役立たないか?」で考える。(要望書と方針を制定)
  5. 都連としての条例の獲得目標と、そのための条件を決めて、条例の問題点もあげる。  
(矛盾点)「いかなる差別」と「2つの柱」の矛盾 /オリンピック成功か、差別の撤廃なのか?  
(欠点)当事者性(都内の差別の現実)が反映されていない/国際人権基準に合っていない  
(獲得目標)国際基準に合致した当事者の参画のもとあらゆる差別の撤廃(個人人権課題の明記)
  6. 取組み方法
    - 連帯組織(人権ネットワークや共闘など。新規・・・)⇒要望書を提出
    - 実際に議会に係わる議員への説明活動
    - ピーポイント
    - マスコミなどを利用し、世論にひろめる
  7. 条例制定まで期限があるので、出来る限り詰めていく
  8. 条例制定後の評価
    - ・運動の成果→・今後の運動の課題(運動の成果を足掛かりにする)
- \*運動にとって、また今後の人権社会にとって必要なものは何か?を考え続ける事が大切です。

# 部落の歴史を学び、反差別の共闘を広げよう

浅草・団左衛門フィールドワーク 狭山青年共闘会議

都連青年部も参加する狭山青年共闘会議で、9月2日に、「浅草・団左衛門フィールドワーク」をおこないました。狭山青年共闘会議とは、共闘組織・団体青年部有志の集まりです。狭山事件の再審開始、石川さんの見えない手錠を外すため、情宣活動や現地調査、学習会などをおこなっています。しかし、全体的に見れば、反差別・人権の取り組みが後退している現状があります。一人一人が考えなければならない問題であるという事、そして、活動の輪を広げていくためには、何故狭山事件に取り組んでいるのか、そもそも部落差別とは、ということの正しい認識が必要であると考え、その一環として今回のフィールドワーク学習会が企画されました。約30名が参加し、①講演「東京の部落問題と差別に立ち向かう社会づくり」、②フィールドワーク、③グループ討論、④交流会をおこないました。

## ～「東京の部落問題と差別に立ち向かう社会づくり」～

都連の近藤書記長に講演してもらい、部落問題とは、東京の皮革産業の歴史、差別事件、「全国部落調査」復刻版出版事件などのインターネット上の差別、差別の構造、国際情勢など、多岐にわたる話を聞きました。東京において、マイノリティの不可視化・周縁化が進み、マイノリティがいないかのような社会情勢にも触れ、包括的な差別禁止法・人権侵害救済法などの法整備の必要性も学習しました。

浅草の部落の歴史を学ぶと共に、差別を撤廃するためには、あらゆる社会団体と連帯し、差別を許さない「反差別」の立場に立つことが大事であることを確認しました。

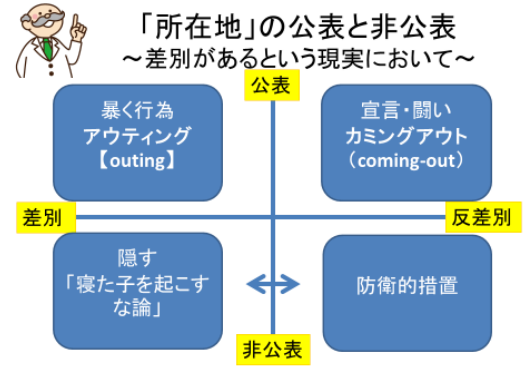
## ～浅草・団左衛門フィールドワーク～

江戸時代に関八州などを支配していた団左衛門は、明治時代になると、製靴と皮革の伝習所を作るなど、浅草の部落・皮革産業の歴史に大きく関わっています。この地域は、江戸古地図で「穢多村」と表記されていました。町再編を経ながら、皮革産業者の流入などで境界線が曖昧になり、部落問題を内包しつつ拡大してきた背景があります。

また、町会設立総会で満場一致で決議された白山神社との合祀を「穢多の神様と一緒にたまるか」などと一部住民が反発・妨害し、差別糾弾闘争として闘った歴史も学びました。

## ～グループ討論～

グループ討論では、今日の感想や部落解放運動に関わったきっかけ、自分の身近な差別、差別を無くすために必要な事などを討論しました。



## ～交流会～

交流会では、夕食をたべながら賑やかにおこなわれました。それぞれの職場・団体での活動や悩み、課題なども話し合いました。終了時間になっても話は尽きることはありませんでした。また学習会などを開催し、それぞれの現状を共有しながら共闘していく事を確認しました。

### 今日の感想

- ・浅草で働いているが、初めて知った
- ・歴史背景から、皮革産業が栄えているのが分かった
- ・差別に表現の自由はない
- ・差別は「無くす」よりも「立ち向かっていく」ものと感じた
- ・出身地で差別されている実態があることに憤りを覚えた

### 身近な差別

- ・職場での女性差別
- ・知り合いが結婚差別を受けた
- ・若いからと押し付けられる
- ・外国人へのヘイトスピーチをよく見かけるように思う
- ・清掃業への差別落書き、差別はがき
- ・周りから“汚い”“臭い”と言われることも
- ・部落差別＝自分への差別
- ・ネット上の匿名で無責任な心無い発言とそれに同調する状況

### 差別を無くすため

- ・知識を深め、差別をしない、させない取り組みが重要
- ・学習と交流を通じて様々な取り組みに参加することも重要
- ・小さい時からの教育が大事
- ・教育・啓発・部落差別解消推進法の周知徹底、実行
- ・相手の立場に立てる想像力を育てる。
- ・差別の可視化
- ・差別に対して立ち向かう姿勢
- ・まずは自分の視点を変えることが必要
- ・身近な友人に学習したことを伝えていく
- ・差別を許さない社会を作る事
- ・デモや集会に参加して差別反対の声を街頭の人々に伝える
- ・権力者の動向に気を付ける。彼らは民衆の差別意識を利用する

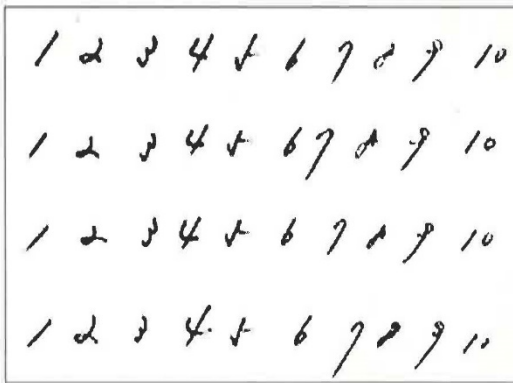
# 発見万年筆は被害者のものではない！！

## インク成分の元素を分析～下山第2鑑定～

2018年8月30日、狭山弁護団は下山進・吉備国際大学名誉教授が作成した鑑定書「Mini-X非破壊分析装置によるインキ成分の元素分析」(下山第2鑑定)などの新証拠を提出しました。

第3次再審請求で提出された新証拠は217点となりました。

下山第2鑑定は、蛍光X線分析装置を使ってインクに含まれている元素を分析することで、発見万年筆が被害者のものではないことを客観的、科学的に明らかにしました。



▲発見万年筆(証拠の万年筆)で書いたとされる「数字」  
2016年10月に証拠開示

弁護団は、被害者が常用していたジェットブルーインクや発見万年筆に入っていたブルーブラックインクの成分の元素について、製造元であるパイロット社に問い合わせました。

その結果、事件当時のジェットブルーインクはクロム元素を含み、ブルーブラックインクはクロム元素を含んでおらず鉄元素が含まれることが分かりました。

下山教授は、「発見万年筆で書かれた数字のインク」、「被害者が常用していたインク瓶のインク」、「被害者が事件当日に書いたペン習字浄書のインク」、「2016年10月に証拠開示された発見万年筆で書いた数字のインク」などを、X線発生器を用いた非破壊分析装置を使用し、検察庁で蛍光X線分析(物質にX線をあてると元素固有の蛍光X線が発生することを利用して物質が含む元素を分析する手法)を行ないました。

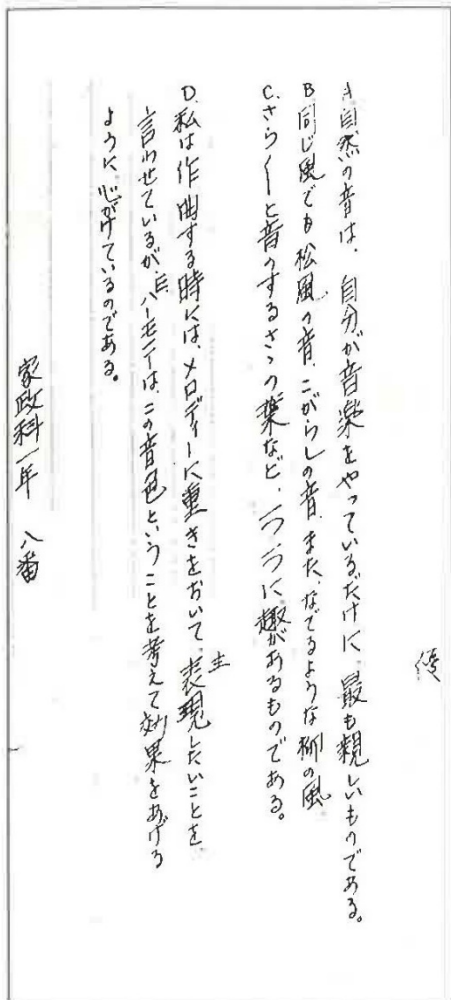
分析を行なった結果、被害者が常用していたインク瓶のインク、ペン習字浄書のインクからはクロム元素が検出されました。

しかし、発見万年筆で書いたとされる数字のインクからクロム元素は検出されなかったのです。さらに、別のインクを万年筆に「補充」していたとしても元のインクのクロム元素が検出されることも確認しています。

インクを補充したならば、クロム元素は検出されるはずですが、検出されなかったということは、発見万年筆に入っていたインクは被害者が常用していたものではないことが証明されました。

以上のことから、発見万年筆は被害者のものではなく、補充もされていないことが明らかとなりました。

「秘密の暴露」は完全に崩壊しており、寺尾確定判決が間違いであったことが証明された今、裁判所に対して事実調べを求める運動を強化し、狭山再審開始を勝ち取るう！！



◀被害者が事件当日に書いたペン習字浄書

# 関東大震災朝鮮人、中国人大虐殺

1923年9月1日11時58分に大地震が発生。関東地方に甚大な被害をもたらし、死者数は10万人を超える。このうち多くが火災により亡くなられた。そんな混乱のなか、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「放火をした」「暴動を起こした」などの流言が起り、6千とも100万ともいわれる朝鮮人、中国人の労働者や留学生、また日本の政治・労働運動家らが日本人民衆や、軍隊・警察によって虐殺された。これは、「震災後の混乱のなか」で流言が広がり、事件が起こったとしているが、差別意識や独立運動への反発が大きな要因として考えられる。当時、植民地化で厳しい状況にあった朝鮮の方々は、日本に行けば「白い米が食べれる」や「給料が2倍だ」など言われ、多くの人々が労働力として日本に渡り、実際は食事も睡眠も満足に与えられず、朝から晩までこき使われていた。日頃より、朝鮮の人々を差別していた日本は、虐殺に係わった民間人への処罰を軽くし、真相究明も行わず、謝罪をするどころか罪も認めず現在に至る。今も、帰らぬ親族を待つ遺族がいることを忘れてはならない。そして、これは過去の事ではない。現在もヘイトスピーチが行われ、目を塞ぎたくなる言葉がインターネット上に溢れている。震災が起れば、在日外国人を貶める言葉が溢れる。そうした、差別行為を許さず、二度と悲劇を繰り返してはならない。

## ～関東大震災95周年 朝鮮人犠牲者追悼式典～

関東大震災後50年を迎えた1973年、不幸な歴史をくり返さず、民族差別をなくし、人権を尊重し善隣友好と平和の礎になることを願って、東京都立横網町公園に関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑が建立され、毎年9月1日には碑の前で「朝鮮人犠牲者追悼式典」が執り行われてきた。95年を迎える今年の式典には約700名が参列した。

歴代の都知事は毎年追悼文を送ってきたが、小池都知事は就任後、追悼文を拒否した。式典実行委員は、事実を忘却させることなく、二度と同じ過ちを繰り返させないためにも、追悼式典が執り行われる意味を理解し、追悼文の送付を要請する8600筆の署名を提出するも、小池都知事は、これを無視し「(都慰霊協会主催の大法要で)都知事としてすべての犠牲者に追悼の意を表している」とし、昨年と同様に追悼文を拒否した。



## ～荒川河川敷 韓国・朝鮮人犠牲者追悼式典～

墨田区「旧四ツ木橋」付近は当時、荒川放水路工事で多くの韓国・朝鮮人が働いていた。そして、虐殺を受けた名前も分からない多くの犠牲者が、歴史の間に葬られ、無念のまま90年以上経った今も埋められている。

9月8日行われた追悼式には、過去をありのままに受け止めて、繰り返さないことを誓い、平和を願うために350人が参列した。追悼式に先立ち行われた「隠された爪痕」上映会は、妨害にあい会場変更するも120人が参加し会場は満席となった。

追悼式には、韓国から初めて遺族の方が2名参加し、残された家族の悲しみ悔しさなどを語られた。また、追悼の歌(POE)や追悼のプンムルも素晴らしくかった。

